

2021 年度聖路加国際大学大学院
看護学研究科課題研究

ワーク・エンゲイジメントに着目した看護師の
メンタルヘルス支援に関する文献検討

A Literature Review on Mental Health Support
for Nurses Focusing on Work Engagement

20MN030

山口 敬

要旨

【目的】看護師のワーク・エンゲイジメントが介入のアウトカムに設定されている先行研究を調査し、ワーク・エンゲイジメントに影響を与えたと考えられる介入を明らかにすることで、看護師のメンタルヘルス支援の役割を担う者の活動に関する示唆、今後の研究課題を見出すことを目的とする。

【方法】看護師のワーク・エンゲイジメントに影響したと考えられる要因に焦点を当て、介入の対象者と介入内容の特徴を抽出し文献レビューを行った。医学中央雑誌 Web、医書.jp、PubMed、MEDLINE、CINAHL、PsycInfo を用いて文献検索を行った。キーワードを「ワーク・エンゲイジメント」「看護」「看護師」「work engagement」「nurses」「nursing staff」「intervention」として検索し、医療機関に所属する看護師を対象に含む介入研究を対象文献とした。

【結果】介入対象の特徴、介入タイプ、介入単位に着目し対象文献 20 編を記述した。

介入対象の特徴で分けると、「メンタルヘルス不調のリスクが高い対象」への介入が 3 編、ICU や精神科といった「持続的な高ストレス状況下にある対象」への介入が 4 編あり、ワーク・エンゲイジメントの向上に有意差を認めなかったものもあったが、7 編全てで介入後にワーク・エンゲイジメントのスコアの向上を認めた。他には、部署の管理者もしくは介入内容に関するリーダーである「ユニットの代表者」への介入が 2 編、「45 歳以上の看護師」への介入が 2 編、前述した特徴はなく研究者らによって「選出されて参加した対象」への介入が 5 編、前述した特徴はなく研究公募に「自ら参加を希望した対象」への介入が 4 編あり、13 編の中にはワーク・エンゲイジメントの向上に効果を認めなかったもの、一時的なスコアの向上はあったが低下したものも含まれていた。

介入タイプには重複もあったが、個人の資源に関する介入と健康増進への介入がともに 10 編あり、そのうち 7 編にワーク・エンゲイジメントの向上に有意な効果を認めた。

介入単位としては、グループ単位で行われた介入が 9 編で最も多く、そのうち個人の資源・健康増進への介入を行った 5 編全てでワーク・エンゲイジメントの向上に有意な効果を認めた。

また、全対象文献のうち、効果を認めなかった介入では、介入への参加が負荷となったため介入対象が脱落した、計画された介入の実施率が低かった、という結果を認めた。

【結論】看護師のワーク・エンゲイジメントを高める介入が有用と考えられる対象の特徴としては、持続的な高ストレス状況下にある対象と、メンタルヘルス不調のリスクが高い対象である。有用な介入方法としては、看護師の認知やコミュニケーションの変化を促す内面へのアプローチを、グループ単位で行うことであると示唆される。また、時間と人的資源の確保といったサポート体制が、グループ単位で行う介入を継続する要因の一つである。